

第2回「交野市立第一中学校区魅力ある学校づくり事業 基本方針・基本計画」説明会

日時：令和2年7月14日(火) 19時～21時

場所：交野市役所 別館3階 中会議室

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応
・文科省は新型コロナウイルスへの対応から30人学級を検討し始めている。交野市も30人学級を検討すべきであり、計画から見直すべきではないか。	・現時点で文科省が新型コロナウイルス対策から30人学級を具体的に検討しているという報告はない。毎日新聞社にはそういった記事が掲載されていたが、文部科学大臣の回答を読むと、具体的な数字をもった話ではなく、中長期的な視点で検討していくという内容であった。今回の施設整備においては、廊下を広くとることや換気空調設備もしっかり検討しながら基本設計に反映させていきたいと考えている。
・公明党が30人学級を文科省に提言したことを知り、東京の公明党本部に電話して確かめた。本部として文科省に提言したが、市町村によって条件が違うので市町村に直接申し出るようにと言われた。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。
・小中一貫教育には賛成だが、コロナの影響で密を避ける工夫が必要な時に1,100人を超える学校をつくることは考え直してほしい。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。
・市の主人公は市民、学校の主人公は子ども達。昨年の8月に一中校区の下校途中の小学生、中学生116人に意見を聞いた。子ども達は正面きって反対とは言わないが心配する意見が多かった。今立ち止まり市民の意見を聞き、考え直してほしい。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。
・豊能町は教育委員会が施設一体型校の建設をやめた。箕面市は2校も施設一体型校を作ったが、次の新設校は施設一体型校をやめ小学校の新設を決めた。箕面市の通学路の適正距離は学校を中心に半径1kmとなっている。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。
・学校教育調査報告という学校がとられている保護者の意見があるが、交野小も長宝寺小も統合校に賛成している保護者の意見はほとんど見られない。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。

・開校準備委員会で通学路の検討をされているが、警察、教育委員会、学校が責任を持って決めてほしい。これまでの統計を見ると、事故が一番多いのが下校時間の低学年で高学年の数倍になっている。ここが守れないと安全とは言えない。	・通学路については開校準備委員会を設置し、そこで検討していただいている。保護者の方、地域の方が中心になって通学路の候補を選考していただいており、その危険箇所について、市や警察が今から検討していくことになる。
・交野小学校にお邪魔して、交野小学校の通学路を記入した地図を作成した。長宝寺小学校にもお邪魔し、長宝寺小学校の通学路を記入した地図を作成した。その後、全部の道を歩いたが、600人近い交野小学校の子ども達が、長宝寺小学校に向かって安全に歩ける道はなかった。通学路を地域の方をお願いするのはすごく精神的な負担になる。通学路の安全については、1番が警察、2番が教育委員会、次が学校で、原案から考えてほしい。	・通学路については、開校準備委員会の中で検討していきたい。
・地域協議会（1年1組）では、6班中4班がスクールバスを検討してほしいという要望が出ていたが、2kmを超えていないという理由で検討にのせないという結論になった。地域協議会で出た意見は距離の問題ではなく、危険箇所が多いということであった。安全に対する不安からスクールバス問題が出た。距離が遠いからだけでは決してなかった。 ・通学路の整備について、信号機の設置となると警察（公安）との協議になるので3年～5年かかる。今頃から検討では絶対に間に合わない。	・信号機や横断歩道の設置はかなり時間がかかると思われ、ハードルは高いと考えている。ただ、市道や府道の路側帯については、関係部署や関係機関に積極的にお願いしながら協力を求めている。令和4年に長宝寺小学校に通学する時までに安全対策に努めたい。
・コロナ後の学校をどう整備するかが問われている。令和7年に新しい学校が開校という中で、学校での新しい生活様式を含めて子ども達をどう守っていくのか。 ・コロナ後の学校として、1,100人の児童生徒を一緒にするような学校で、子ども達の命と健康を守れるのか。	・コロナがあるなしに関わらず、かなりスペースを広くとっており、様々な教育カリキュラムに対応できるよう、この計画は策定されている。換気空調等も検討して整備を進めていきたい。
・コロナ期間の再開後は少人数で授業されたが、子ども達も教員も歓迎の声が多かった。実際に交野で少人数学級をやってどうだったのか検証すべきではないか。	・6月1日～15日までの間、分散授業という形で授業を再開したが、久しぶりの学校ということで子ども達は喜んだ様子だった。教員は特別教室等も活用し、学校によっては管理職も授業の中に入り、人数を制限した形で授業を行った。

・少人数学級は多目的室があるから大丈夫との回答だが、児童生徒が日常的に生活するのは普通教室で、コロナ後の学校は「ゆとりある学校」にすべきである。	・本市では小学校一年生～六年生までを35人以下学級にしており、今後も35人以下学級を小学校で続けていくという方針に変わりはない。ただ、30人以下学級となれば、16人や15人の学級ができるので、それが少人数で良いという場合もあるが、学級づくりや子どもの成長を考えた時に、もう少し人数がいるのではないかと感じている。
・政府も骨太の方針で、少人数の授業を具体化していこうと盛り込もうとしている。公明党も政府に要望している。全国知事会、全国市長会、全国町村長会の地方3団体も国に少人数学級の要望を挙げている。交野市も全国市長会に入っているので少人数学級を目指すべきではないか。	・少人数学級については、本市の場合は市の単費予算でやっていることから、国として実施するよう毎年要望している。
・情の森、英知の庭、探求の学び舎というのは、特別なことではなくどこの学校づくりでも当てはまること。一中校区だけではなく他の校区でも言えること。どこの学校も魅力あるものにしていかなければいけないというスタンスが重要だと思う。	・第一中学校区にできる新しい学校はある意味で交野のモデルであり、そのモデルを他の小中学校に広げていくことも重要と考えている。メインコンセプトは、第一中学校区だけの話ではなく、この精神はどの小中学校でも共通のものとなる。
・支援学級が1階にない。A案からC案すべて2階から4階にある。エレベーターがあるので普段はよいが、災害時になるとエレベーターが使えないこともある。三中にはスロープがあるが、今回の計画ではそういったものが見当たらない。	・支援学級については、各学級に近い位置に支援学級を配置するというイメージをイメージして図面を作成している。バリアフリーの観点からA案からC案のすべてでエレベーターを設置している。
・学校適正化計画の児童生徒数はだんだんと減っていくという曲線を描いているが、第一中学校区においては違う。令和7年から令和9年がピークとなる。もし、いきいきランドのところに市庁舎が移転となれば、それ以降も増えていく。そうなった場合に増築はできるのか。	・平成31年2月に策定した「学校規模適正化基本計画」の段階で、小小統合、小中統合、校区編成など11案を検討してきた経緯があり、この敷地の形状に合った基本設計をこれから組んでいくことになる。
・とにかく交野小学校の敷地に一貫校を作るんだ、そこに3つの学校の児童生徒を納めるんだ、これが足かせになってこんな無理な計画になっているのではないか。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。
・支援学級を学年の近くに置くというポリシーなら、1階に出やすいように、安全に出られるようにするためにはどうするかということを考えるべき。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。

・一年生から六年生まで35人以下学級というお話があったが、これには支援学級の子どもは含まれていないので、支援学級も入れた人数では35人以下学級を進めてほしい。この計画では、4-3-2制を導入するといったことが書かれてあったが、同じ階で展開するのであれば、中学生にも35人以下学級を目指していただきたい。	・特別教室などの必要になる諸室は、児童生徒数によって決まる。このA案B案C案はあくまでもプラン案なので、細かな部分については今年度の教職員協議会や様々な形でご意見を伺いながら整備していくことになる。
・小学生と中学生が共有するという特別教室は、どのような教室でどれだけあるのか。トイレと手洗い場についても、トイレ以外にも手洗い場が必要ではないか。保健室は一か所だけしか見つけられなかったが、小学生と中学生で別々に配置すべき。	・保健室については1つしか設けていないが、小学生と中学生の別に保健室が2ついるという話になれば、2つ別々に分離するのかなど、教職員の方々に意見を伺ながら検討していきたい。 ・手洗い場の設置位置についても様々な考え方があるので、今後検討していきたい。
・プールについてはいきいきランドへの往復に対する安全問題や一般市民の方々に利用制限の問題はどうなっているのか。	・プールについては、時間割でどれくらいの時間数を設定するのか、また、夏場だけではなくどれくらいの期間使用できるかといったことも検討した上で、いきいきランド休館日もうまく活用しながら市民に迷惑がかからないような設定を検討していきたい。
・この説明会は記録されているのか。	・この説明会は録音しているので議事録は作成できる。
・体育館の開放について、今の学校は3面開放ができ、空気の入替えで開放できるが、この図案を見ると1面以外は開放できる部分がない。	・体育館についてはパターンによって色々で設定の変更は可能と考えている。体育館に限った話ではなく、他の教室についても換気空調がしっかりできるよう検討していきたい。
・何を根拠に1,100人の児童生徒が入ると言われているのか根拠を示してほしい。	・1,100人が入るとするのは教育委員会事務局として検討を行った結果である。ボリューム検討を行い、配置案のシミュレーション図面を検討した結果である。
・グラウンドを見ても交野小は11,600㎡、長宝寺小9,900㎡、一中11,300㎡、今回は3つ一緒になって12,100㎡。メイングラウンドだけなら今の交野小よりも狭い。この12,100㎡は今の文科省の最低基準をクリアしているに過ぎない。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。
・図面では廊下の両側に教室を配置しているが、今は全部の教室が片側になっている。本当に子どものことを考えたら、廊下の片側に教室を配置したほうが教育環境は良くなる。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。

・3つの学校を一緒にすることに無理がある。出発点は長宝寺小の小規模校の解消だが、その時に検討されたのが小小統合、校区変更、小中一貫であった。小小統合と小中一貫校は、小中一貫教育の問題をどけたら同点だったが、小中一貫教育にどれが一番適しているかという配点で加算され差が出てしまった。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。
・市役所がいきいきランド周辺に移転した場合、その周辺の畑や田んぼに開発の圧力が高まってきて家が建ってきたら、その児童生徒は全部一貫校に入ることになる。私部7丁目も開発が入ってきている。そういったことを考えると、やはり無理な話ではないか。一中を別にするという案が一番良いのではないか。	・ご意見として承ったことを、記録に残します。